

教育委員になるにあたり思うこと

(弘前市教育委員会委員 伊東 重豪)

今年度より教育委員を拝命させていただきました。伊東重豪と申します。まずは自己紹介をさせていただきますが、医療に携わっておりまして、弘前市医師会の理事も兼務しております。医師会では、学校保健会の理事や学校医を務める傍ら、看護専門学校の副校長として教鞭もっております。そのようなことで医療職・教職の二つの観点から、弘前市教育委員会のお役に立てればと考え、この役を受けさせていただきました。

私は生まれも育ちも弘前で、朝陽小学校、第四中学校、弘前高校と進学し、大学は松本にある信州大学医学部を卒業しました。東京で医師初期研修を終えると弘前へ戻り、当時の弘前大学医学部第一内科へ入局しました。大学では臨床の研鑽を積む一方で研究に没頭しておりました。その際、留学の機会があり、米国に3年間留学いたしました。その時の経験は非常に貴重なものであり、ある意味、私にカルチャーショックを与えてくれました。それは米国における学びというものでした。私の所属する研究室には、その分野で一流と呼ばれる人が指導しており、そのトップレベルの内容から新たな研究を作り出そうと、米国各地や海外から研究者が嬉々として集まっておりました。また、その大学内では、その他にも沢山の一流の技術をもった研究室があり、茶のみ話をする感覚で、技術を教わりにいくこともしばしばでした。また講義では、招待講演でとても普段では聞けないような話も聴講することもできました。研究室には、高校生が一定期間やってきて、我々と同じような研究を仕上げたりします。

そのレベルの高さと好きなことを突き詰められるパッションを保てる環境というのは最高の学びの場だと思い知らされました。

日本の義務教育とは、人間形成と基礎学力の習得にあると思いますが、学びとはもっと自由で楽しいものであっていいと思います。私の曾祖父は養生学という哲学を創設しております。養生哲学は、幼児から教え込まれた儒教的教養と大学で得た医学知識・体育理論、生物学、特に進化論が渾然として一つに纏められたものと考えられ、「養神・養体・養財」を基本概念とし、優れた人間形成をめざしました。そのなかで養生幼稚園を創立し、道半ばにしてこの世を去っておりますが、同幼稚園は現存しており、優秀な人材の育成に貢献しております。

現在の教育を取り巻く環境は、人間・社会生活の多様化により複雑化しておりますが、これまで我が子3人を育て培った経験を活かし、これからの世代を担っていく子どもたちのために少しでも尽力できればと考えております。

甚だ未熟ではございますが、よろしくお願いいたします。